

「子宮頸がん」ってどんな病気？

子宮頸がんとは、子宮頸部（子宮の入口付近）にできるがんで、「ヒトパピローマウイルス（HPV）」の感染が主な原因です。以前は、40歳以上の発症が多かったのですが、最近では20～30歳代の若い年代の発症が増えてきています。

■ヒトパピローマウイルス（HPV）とは？

HPVは、皮膚や粘膜に存在するごくありふれたウイルス（130種類）です。その中で子宮頸がんは、15種類ほどある発がん性HPV（高リスク型HPV）の子宮入口への持続的感染が原因で発症します。HPVの感染経路は、おもに性交渉です。

■子宮頸がんを予防するための方法は？

予防接種をすることで発がん性HPVのうちの約60%を占めるHPV16型と18型の子宮頸部への感染を防ぐことができ、子宮頸がん発症を予防することができます。しかし、他の発がん性HPVの感染を予防することはできないので、子宮頸がん検診を定期的に受ける必要があります。

知って
ください

「ヒブ（インフルエンザ菌b型）」「小児肺炎球菌」って何ですか？

ヒブや小児肺炎球菌は、乳幼児の細菌性髄膜炎など重い病気の原因となります。

■インフルエンザ菌b型（ヒブ：Hib）って？

乳幼児の細菌性髄膜炎を起こす細菌のうち、その原因の半分以上を占めているのが「インフルエンザ菌b型」、略して「ヒブ：（Hib）」です。ヒブは、他の細菌やウイルスと異なり、乳幼児が感染しても抗体（免疫）ができず、繰り返し感染することがあります。

■小児肺炎球菌って？

小児肺炎球菌は、乳幼児の鼻咽頭に高率で存在する常在菌で、小児の細菌感染症（菌血症・中耳炎・細菌性髄膜炎など）の主な原因菌です。

■細菌性髄膜炎とは？

脳や脊髄を覆っている髄膜に細菌が感染し、炎症を起こす病気です。初期症状が発熱や嘔吐など風邪の症状等に似ているため、早期に診断することが難しいうえに重症化しやすく、死亡したり重い後遺症を残すこともあります。主に5歳未満の乳幼児がかかりやすく、特に2歳未満の者が多くなっています。

ヒブ・小児肺炎球菌予防接種

助成制度を設けました

平成23年2月1日から、2カ月以上5歳未満の児童は全額公費（自己負担なし）でワクチンを接種することができます。

■ヒブ（インフルエンザ菌b型）予防接種

現行	平成23年2月1日から平成24年3月31日まで		
	対象年齢	接種回数	助成額
助成制度なし	接種開始時に生後2カ月以上7カ月未満	4回	全額助成
	接種開始時に生後7カ月以上1歳未満	3回	
	接種開始時に1歳以上5歳未満	1回	

■小児肺炎球菌予防接種

現行	平成23年2月1日から平成24年3月31日まで		
	対象年齢	接種回数	助成額
助成制度なし	接種開始時に生後2カ月以上7カ月未満	4回	全額助成
	接種開始時に生後7カ月以上1歳未満	3回	
	接種開始時に生後1歳以上2歳未満	2回	
	接種開始時に2歳以上5歳未満	1回	

【接種方法】

ご自分で協力医療機関へ予約し、ワクチンを接種してください。
※ヒブ・小児肺炎球菌予防接種は、お子さんの月齢によって接種回数が異なります。接種を希望する場合は、美郷町保健センターへ連絡した後に「任意予防接種依頼書」と「予診票」を取りに来ていただくことになります。

【接種時の持ち物】

母子健康手帳、任意予防接種依頼書、予診票

ヒブワクチンと小児肺炎球菌ワクチンを接種することにより、ヒブや小児肺炎球菌が原因の細菌性髄膜炎、肺炎、菌血症などを予防することができます。

子宮頸がん予防接種

助成対象が拡大されました

平成23年2月1日から、中学1年生相当から高校3年生相当までの女子は全額公費（自己負担なし）でワクチンを接種することができます。

	助成拡大前	助成拡大後
助成期間	平成22年8月1日～平成23年1月31日	平成23年2月1日～平成24年3月31日
対象者	中学1年生～ 中学3年生の女子 (平成7年4月2日～平成10年4月1日生)	中学1年生相当～ 高校3年生相当の女子 (平成4年4月2日～平成10年4月1日生) ただし、現高校3年生は平成23年3月31日までの助成期間になります。
助成額	一部助成	全額助成

【接種方法】

ご自分で協力医療機関へ予約し、ワクチンを接種してください。
ワクチンは腕の筋肉へ注射をします。半年間で3回（初回、初回から1カ月後、初回から6カ月後）の接種が必要です。

【接種時の持ち物】

健康保険証、母子健康手帳、**子宮頸がん予防接種通知書**（後日、保健センターから郵送されます）

子宮頸がん予防接種は、子宮頸がんの発症を100%防ぐものではありません。お子さんの命と、あなた自身の命を子宮頸がんから守るために20歳になったら子宮頸がん検診を受けましょう。

平成22年8月1日から平成23年1月31日までの間に
予防接種を受けた中学生及び高校生の方へ

接種料金の自己負担分を補助金として返還しますので、下記の返還方法をお読みになり、手続きを行ってくださいますようお願いいたします。

【返還方法】

「子宮頸がん予防接種費用補助金交付申請書兼請求書」に「領収書の原本（接種者・医療機関名・領収金額が明記された領収書）」、「子宮頸がん予防接種予診票の写（接種したことを証明できるもの）」、振込口座の通帳の写しを添えて、美郷町保健センターまで提出してください。提出された書類に基づき、確認後、申請者の口座へ補助金を振込みます。

子宮頸がん予防接種
ヒブ・小児肺炎球菌予防接種
平成23年2月1日から
全額助成します。

美郷町では、平成22年8月1日から女子中学生を対象に「子宮頸がん予防接種」の接種費用の一部を助成してきましたが、このたび国庫補助が行われることになり、これを受けて平成23年2月1日からは接種対象年齢を拡充します。また、ヒブ・小児肺炎球菌の2つの任意予防接種を新たに助成対象に加え、いずれも全額助成（自己負担なし）で実施します。

問い合わせ先 ●美郷町保健センター
TEL 0187(84)4900